

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105151		
法人名	株式会社メディカメント		
事業所名	グループホームいやしの家富田町		
所在地	岡山県岡山市北区富田町一丁目4-5		
自己評価作成日	平成30年12月25日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

岡山駅より徒歩15分の市街中心部にホームがあり、交通、買物等充実した立地である。西川緑道公園が目前にあり、いつでも散歩が出来る環境である。1日1回は大声で笑い、しっかり食べてのんびりと過ごしている。年2回バス旅行にて出かけている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市平成台31-34		
訪問調査日	平成31年1月23日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は岡山市街中心部の商業ビル内に位置している。街中にありながらも町内会に加入し、地域住民との交流と衛生面での地域貢献に努めている。また、岡山市との連携により、事業所が防災マップに掲載されており、災害時には近隣住民と協力体制を取る事になり、地域との連携がみられる。理念の「基本的人権の保護」を念頭に、利用者の安全を守りながら、一人ひとりの暮らし方を尊重するよう努めている。経営母体が薬局であるため、医療関係者との密な連携がはかれると共に内服の管理も担っており、職員の安心につながっている。理学療法士によるリハビリも行われ、利用者の筋力増進となり、医療面での連携が充実しており安心感がある。今年度は、職員の要望を取り入れた事業所のリフォームが行われた事により、職員の働きやすい環境となり、利用者へ安心・安全な生活援助が提供でき、ADLの向上につながると思われる。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、日々の暮らしの個人のケアプランに添った支援をしている。	理念を各階の事務所へ掲示し、職員間で共有している。年度初めに個人目標とユニット目標を設定して、ケアの振り返りを行なっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に二度の町内の資源ゴミの日はスタッフが最低一人必ず参加し、交流する。第1.3金曜日	町内会に加入し、2ヶ月ごとの資源ゴミの掃除や年1度の川掃除に参加している。地域住民と顔なじみとなり日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の清掃などに参加しているが認知症の理解はまだまだ得られていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	資源ゴミの日に近所の方が「グループホームとは？」と聞いてこられるなどコミュニケーションがとれるようになってきた。見学会など予定	運営推進会議は町内会長・利用者・家族の出席を得て2度開催した。内容は、見学会、入居状況・活動報告や介護のケア方法や救命救急の対応について行い、事業所の理解が得られている。	地域へ情報発信することで、さらに連携を深めることができるよう、会議を定期的に開催する工夫が期待されま
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村と密に取り組んでいるとは思えないが、研修会などには参加している	市主催の研修会に参加している。管理者やケアマネが窓口となり、介護認定時や必要時に情報提供し、協力関係を築いている。連携が必要な担当課とは密に関わり、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をするときは、家族へ状況報告をして同意をいただく。玄関の施錠は目の前に国道があり交通量が多いため行っている	年に3回、身体拘束・虐待防止について勉強会を開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。参加できなかったスタッフには資料を渡し、情報を共有し、周知できるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様と関係が密になったり、入居が長い期間になると言葉が乱暴になったりすることがあるので反省をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフすべて理解に乏しい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っている。改訂がある場合には随時掲示を更新している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方とは話し合う機会を持つようにつとめている。面会が厳しい方へは電話にて連絡を取っている。	利用者は、食事や入浴時など日常の場面から要望を聴いている。家族は面会時に聴くことが多い。出された要望は、利用者の着替えのタイミングを工夫する等の支援や、焼き肉が食べたいという眩きから焼き肉パーティを開催する等反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の介護業務管理委員会の後、各ユニットで意見を管理者、又はホーム長などへ伝える。	各ユニット間での話し合いの中で、意見や要望を聴き、管理者・ホーム長が本部で伝えている。今年度は、リフォームの場所や内容(壁紙や棚のなど)について職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム長が出来る限りスタッフの話を聞き、やる気が出るような話し合いをしている。パートも含め勤務希望はほぼ通している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会などの参加は、職員に声かけをしている。個人的に参加するスタッフもいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ほとんど出ていないと思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居日のケアプランでは本当に困っていることなどは取り上げにくい。利用者様と時間をかけて少しずつケアプランに加える。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接や入居前までに家族と情報交換をしたり、要望に応えられるよう、努力をしている。入居前にもなるべく情報をもらう様に医療機関とも連携に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の希望がサービス開始の段階でできているとは言えないが、家族に対しての「そのとき」「その場面」に必要としている支援は理解するよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	努力をしているが、一方的になることがある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、ケアプラン更新時に出来る限り時間を取って話し合い、支え合う気持ちで関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人によって様々であるため、全員とまではいかないが、出来る方は支援している。	墓参りや馴染みの寿司屋に行きたい等、要望を聴き取り、家族や職員が共に出かけられるよう支援している。家族の来訪時には、湯茶の接待をし、ゆっくり話ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	女性がほとんどではあるが、ほとんどの方がリビングで過ごされており、ソファへならんで座り談笑される事が多い。一人になるより他の方とかかわっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	個々に合わせて努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努力している。1対1の時など思いを聞いてできる事は援助するよう努力している。	職員が寄り添い、思いや意向を把握し、出来る限りそれに沿うよう努めている。表出困難な場合は、しぐさや表情から読み取ると共に、家族の思いも聴きながら本人本位に検討・対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努力している。家族との会話や利用者様が語る過去の話から知る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい暮らしを一番に考えているがすべてにおいて利用者様の希望どおりにはいかない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	自己主張できる方は意見を聴く事が出来るが、主張されない方は家族の意見や、色々なアイデアを反映しケアプランを作成している。	利用者・家族の思いを聴き、主治医や薬剤師、家族からの意見を反映し計画を作成している。モニタリングは1か月毎、見直しは3～6ヶ月毎行っている。状況が変化した場合は、その都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや記録などに書き込み全員がチェックするようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り取り組んでおり、努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前からデイケアを利用されている方は、そのまま利用されている方もおられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院の密接な関係、歯科往診、リハビリなど支援している。	協力医の月2回の往診、訪問看護、薬剤師の来訪があり緊急時や夜間も相談が出来る体制である。理学療法士による週1回の集団リハビリがあり、利用者それぞれの必要な運動について相談し、連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護ステーションの看護師の訪問を受けており、利用者様の健康状態や「思い」など情報等交換をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は出来る限り面会に行き、病院での生活や治療などの情報を得ている。退院時は医師、看護師などに情報提供書をもらい連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に変化があった場合、医療機関などに報告家族の要望等しっかり受け止めるよう努めている。訪問看護ステーションなどに応援要請する。	入居時に、終末期について、家族と話し合いをしている。重度化した場合は、職員、医師や訪問看護が、家族と指針を共有しチームで支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当など初期対応については研修を受け実践したことはある。しかし、不安はいつもある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は行っているものの、地域との協力体制はとれていない。近くに消防署がある。	年2回、昼間・夜間想定で火災避難訓練をしている。また、岡山市・危機管理課との連携により、事業所が防災マップに掲載されており、災害時には近隣住民と協力体制を取る事になり、地域との連携がみられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的人権の保護をモットーに努めているが、判断が難しい場面もあるので利用者様の安全確保に努めている。	利用者の人格を尊重し、一人ひとりに合わせた対応や声かけの工夫に努めている。トイレ誘導時にはさりげない声掛けをするよう気を付けている。プライバシーを損ねないように、入浴時に札をかけた後、居室のドアの子窓から見えないよう塞ぐ等の配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りの希望、要望、家族の協力など受け止めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添って支援しているつもりではあるが、ある程度の生活リズムをつける為には希望に添って支援出来ない場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の自由を尊重しているが、季節感がない利用者様には何種類かの服を提供し、選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はあるが、好き嫌いがあるため、その人に応じた食事を提供している。	朝食は、パン・お粥・ご飯の中から選択ができる。要望に応じて即席ラーメンをたべたり、焼き肉パーティも開催された。クリスマスやおせち等、季節の料理を味わったり、誕生ケーキを一緒に作るなど食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水に注意しながら水分補給の提供をしている。ミキサー食、キザミ食それぞれいる。食が細い方には栄養補助食品も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人口腔ケアを行っており、歯科往診もあり出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツを使用している方が多いが、トイレの声かけに努めており、トイレでの排泄を心がけている。	利用者の排泄パターンの把握に努め、定期的に声掛けを行いトイレ誘導をしている。利用者の個々の状況に応じて二人対応もしている。トイレの介助バーを設置したことで、自立支援につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘には気をつけて、水分補給や医師への相談を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴される方は毎日入っていただくが、入浴嫌いな方が多いので、利用者様と相談し、時間を決めて入浴して頂いている。	2日毎に入浴の支援をしているが、希望に応じて毎日入浴することもできる。ゆず湯にしたり、いろいろな入浴剤を入れたり、ゆっくりと会話を楽しむ利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースで過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が薬の管理をするので、スタッフは常に相談に応じてもらえる。薬状書に副作用や用法がかかれておりスタッフは把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生き生きとしてもらえるよう日々努力している。誕生日のある月は利用者と共にケーキを作ったりレクリエーションをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩に出かけるよう雨天以外は声かけをしているが、地域の協力までは得られていない。	年2回、恒例のバス旅行にでかけている。ホテルランチや道の駅、花見等、家族の協力も得て、普段行けない場所にも出かけられるよう支援している。気分転換で事業所周辺を散歩したり、車いすでユニット間を移動する事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にあった方が安心される方は、家族との相談の上、金額を決めて所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。電話は家族と相談の上かけていい時間を決めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室にカレンダーなどで季節感を味わって頂いたり、先に出て花を取って水にさしてもらっている。	リビングは明るく、共用空間は広く開放感がある。温かな日差しが差し込み、ソファや椅子が配置され、利用者がそれぞれの場所で落ち着ける雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	目線やTVの位置など配席などに注意している。具体的に合わせてベッドの位置も変えてみたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や仏壇など本人の大切にしている物など安心して安全に生活して頂けるように配置をしたり、居心地良く過ごして頂けるよう努力している。	備え付けはベッドとタンスを用意している。自宅で使用していた馴染みの家具や家族の写真など置かれ、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	100%ではないが「できること」「役割」など安心して安全に生き生きと生活ができるよう努めている		